

**富山県
南砺市**

**災害時相互応援協定を
締結しました**

問合せ
防災安全課
☎245 232

震災からちょうど5か月の節目となる8月11日に富山県南砺市と「災害時相互応援協定」を締結しました。

本市と南砺市は、これまでに培われてきた交流の実績を踏まえ、友愛と相互扶助の精神に基づき、被害を受けた市の応急対策や復旧活動が迅速で円滑に遂行されるよう、協定を結んだものです。

南砺市役所福野庁舎で行われた締結式では、両市の市議会議員や消防団長など16人が出席し、田中幹夫南砺市長と桜井市長が協定書に署名しました。

桜井市長は「締結によって新たな出発点になります。復興について改めて心を強くしました」と述べ、田中市長と笑顔で固い握手を交わしました。

なぜ南砺市と？

約200年前の天明の飢きん後の移民政策で、現在の南砺市から約7千人が移り住んだとされ、江戸時代からの歴史のつながりがあります。今回の東日本大震災では、3月24日から職員が派遣され、これまで113人（延べ約370人）の支援を受けてきました。



▲握手を交わす田中南砺市長(左)と桜井市長

災害時相互応援協定とは

災害時相互応援協定とは、地震などの大規模災害が発生し、被災市が自ら応急措置ができない場合に、救済資機材の援助や被災者を支援するものです。

応援の内容は、食糧や飲料水、生活必需品などの物資の提供、応援に必要な職員の派遣、災害救助ボランティアのあっせんなどを行います。

富山県南砺市

人口 55,234人
26,436人(男)
28,798人(女)
世帯数 17,380世帯
(平成23年7月末現在)



富山県の南西端に位置し、面積は668.86平方キロメートルで、そのうち約8割が白山国立公園などを含む森林です。

全国から支援を受けて

市では、東京都杉並区をはじめ、北海道名寄市や新潟県小千谷市、静岡県島田市などから職員の派遣を受け、様々な業務に対応しています。業務は、放射線モニタリングや市民税賦課業務、り災証明関係業務、復興計画に関することなどです。

市の業務を支援して
いただいている自治体

東京都
愛媛県
滋賀県
京都府
北海道名寄市
埼玉県所沢市
東京都杉並区
新潟県小千谷市
新潟県糸魚川市
新潟県柏崎市
静岡県島田市
富山県南砺市



▲遺留品を整理する南砺市職員



▼復興計画の業務を支援する杉並区(左)と小千谷市の職員

東京都杉並区、北海道名寄市、新潟県小千谷市……

持ち主との「再会」を

洗浄ボランティア

亀井志津江さん

30歳

(神奈川県厚木市)

日本中からたくさんボランティアが南相馬を支援しています。その中の一人、亀井さんは神奈川県厚木市から駆け付け、津波で流された写真や位牌など、被災者の思い出の品を洗浄しています。自衛隊や機動隊が現場を捜索した際に出てきた「泥まみれ」になった写真などをハケやブラシを使ってできるだけ元の形にする。1分ほどできれいになるものもあれば、30分以上掛かるものもあり、繊細で集中力が必要な作業です。

たくさんさんの写真の中でも家族の写真が印象に残っているという亀井さんは「遠くに避難している人のためにも、1点でも多くきれいにして持ち主に返してあげたい」と目を輝かせながら作業を進めていました。



▲思い出の品を探しに...

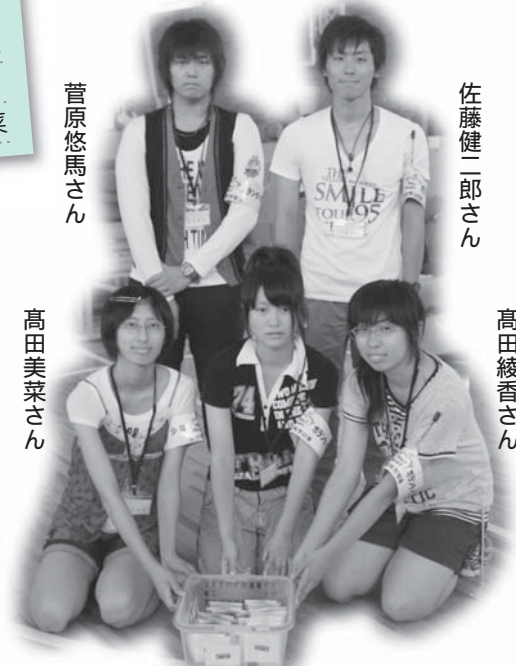
縦覧時間 9時～16時
馬事公苑
 (原町区片倉字畦原4-1)
 ・小高区と原町区(小浜・小沢)で発見されたもの
栄町柔剣道場
 (原町区栄町二丁目42)
 ・鹿島区と原町区(小浜・小沢を除く)で発見されたもの

被災地だからできる ボランティア活動を

南相馬警察署 少年ボランティア ユーアイハート

ユーアイハートの今年1回目の活動として、避難所生活の方に手作りクッキーを届けました。避難所の方に喜んでいただき、今回の活動に参加できたことを誇りに思います。この活動の輪が各地に広がってくれたら嬉しいです。
 原町高等学校2年 高田 綾香

今年度は「被災地だからこそできる少年ボランティア活動」をスローガンに、人と人の絆と地域安全の輪が広がることを期待されます。5人のメンバーのうち、津波の被害を受けて被災した3人の女子生徒も「自分にも何かできるはず」と積極的に参加しています。



菅原悠馬さん

佐藤健二郎さん

高田綾香さん

高田美菜さん

私は、津波のために自宅から避難して生活していますが、自分にも何か出来ることはないかと思いユーアイハートに応募しました。避難所にいる皆さんにクッキーを作り、プレゼントしました。「ありがとう」と言われたときは嬉しかったです。これからも頑張りたいです。
 原町第二中学校2年 高田 美菜

クッキーとメッセージを手にする小林さんご夫婦



もったいなくて食べられない！

私は津波で大切にしていたものを全てなくしました。様々な方たちに支援をもらったので、形は違っても少しでもお返しができると思い参加しました。初めは恥ずかしくどうしたらいいのか分からなくて緊張しましたが「ありがとう」って言ってもらえてうれしかったです。
 鹿島中学校3年 濱名 渚

濱名 渚さん